

はくぶつかんネット第56号

平成28年4月～6月

宜野湾市立博物館発行

慰霊の日写真パネル展

「沖縄戦の中の宜野湾～戦争で失われたムラ・命～」

暑い日が続いていますが、皆様いかがお過ごしでしょうか。

当館では去る6月15日(水)～7月3日(日)に、企画展「沖縄戦の中の宜野湾～戦争で失われたムラ・命～」を開催し、約1,300名あまりのお客様にご来場して頂きました。

本企画展では、戦前の宜野湾の原風景が沖縄戦の経過をふまえ、変貌していく状況を写真パネルを中心に展示し、戦争と平和について考えることを目的としました。

宜野湾市は、沖縄戦において激しく戦闘が行われた地域の一つです。日米両兵のみならず、多くの住民が犠牲となりました。また、多くの公共施設や集落、宜野湾のナンマチ(並松街道)も破壊され、飛行場が建設されました。

沖縄戦から70年余りが経過した今日では、戦争体験者は減少しつつあり「戦争」とはどのようなものなのか、戦後生まれである私たちの生活から遠ざかっていく一方です。戦争を忘れないためにも戦後世代の私たちから、戦争について学ぶ機会を得ること、そして戦争の悲惨さや命の尊さを理解することが、大切な事だと言えるでしょう。

企画展を見学されたお客様、貴重な資料を提供してくださいました皆様のおかげで無事、企画展を終了することができました。誠にありがとうございました！次回も皆様に足を運んでもらえるような、企画展を開催していきます！



■戦前の宜野湾

戦前の宜野湾は、農業を中心とした村でした。宜野湾村の中心部には宜野湾村役場や、宜野湾国民学校、宜野湾並松街道があり、約6 kmに及ぶ並松は「ジノーンナンマチ」(宜野湾並松)と呼ばれ広く知られています。また西側には、県道や軽便鉄道がそれぞれ南北にはしっており、普天間には中頭地方事務所、中頭教育委員会、県立農事試験場が置かれていました。宜野湾村は交通や行政の要所となっていました。



米軍上陸前の宜野湾村 (1944年9月)

★PICK UP★

昔の字宜野湾村を再現したイメージムービーが完成しました！
今回、字宜野湾郷友会の方からお借りして映像を流しました。



宜野湾並松と一の鳥居
(1924年頃)



歴史ある並松も基地建設等のために、切り倒されてしまったようじゃ・・・



ズーッアッブ!



電動のこぎりで並松を伐り倒す米兵 (1945年)

■終戦・戦後のはじまり

宜野湾村民の多くは、北部の収容所に収容されていました。住民たちは北部から野嵩とその周辺に戻りましたが、そこから自分たちのムラ(故郷)に戻ることは容易ではなく、米軍の許可が下りなければ、元の集落へ帰ることはできませんでした。しかし元の集落には、普天間飛行場や米軍施設が建設されていたため、住民たちは基地を取り囲むように家を建てて生活をはじめていきました。



『宜野湾 戦後のはじまり』第二版 ¥700(税込)の販売がスタートしました!



『宜野湾市史』第8巻資料編7戦後資料編I「戦後初期の宜野湾」資料編の解説版です。内容も一部更新され、フルカラー印刷の本となっています。販売開始前から、お問い合わせの多い人気のある本です!

その他、宜野湾市の歴史や自然、文化に関する本も取り扱っています。宜野湾市教育委員会文化課または当館でお買い求めください。売り切れになっている本は、市民図書館、当館で閲覧可能です。

次回の企画展はこちら!!

「ムラを守る神々」展

沖縄には古くからムラ（集落）と、そこに住む人々を守る御嶽（ウタキ）があり、今もなお、年中祭祀の中で人々の健康祈願などが行われています。本企画展では、琉球王国時代から引き継がれる宜野湾のムラの聖地や由来などを紹介します。

開催期間：7月27日（水）～9月4日（日） 入場無料

ここで少しだけ

御嶽（ウタキ）のお話♪



我如古ヒージャーガー



大山御嶽碑



Q 御嶽（ウタキ）って何だろう？

A 神社と同質なところで、村の守護神がまつられているところだよ。ウタキは集落の発生と深いかわりがあるところで、それゆえに最も重要な聖地となっているんだよ。



Q 御嶽（ウタキ）の神様はだれ？

A ウタキの神様は、その集落に住む人々の祖先たちだと言われることが多いんだよ。神様は、子孫である人々を守ってくれているんだね。他にも、神話に出てくる神様や昔の王様など、まつられている場合があるよ。



関連講座のお知らせです

●「歳時記のはなし」（室内講座）

講師：稲福 政斉（沖縄国際大学 非常勤講師）

日時：8月28日（日）14：00～16：00

●「ムラの神々をめぐる」（野外講座）

講師：新垣 義夫（普天満宮 宮司）

日時：11月27日（日）13：00～16：00

※いずれの講座も申し込み開始は、講座予定日の約1ヶ月前からとなります。

先着順となりますので、定員に達し次第締め切らせていただきます。

また、電話の申込みも受付しています。



市史より がちまやあ Gači-majaa



こんにちは！いよいよ暑い夏がやってきますね。博物館周辺では様々な生き物を見かけるようになりました。日頃、ご利用される方もそうでない方も、**宜野湾市立博物館にはオオウナギがいるのをご存知ですか？**

実は、このオオウナギは大山のターンム畑（田イモ畑）から来ました。いったいどういう経緯で博物館にやって来たのでしょうか・・・。



ぼくは、2012(平成24)年6月に大山六丁目のメンダカリヒーガー付近の水田で発見されたんだよ。暑さで弱っている所をターンム農家の方が捕獲し保護してくれたんだ。
でも、捕獲される時は大暴れ！傷つけないように、網を使ってようやく成功したんだって。そして、「ウナピー」という愛称をつけられて博物館で暮らす事になったんだよ！

オオウナギは太い茶褐色の体に黒のまだら模様をしています。川だけでなく、湧き水にも現れることから、沖縄では「カーウナジー」とも呼ばれています。夜に活動し、小魚やカニ・エビを捕えて食べます。普段は石の下やコンクリートの隙間にいることが多く、大山のターンム畑ではときどき目撃されています。

都市化が進む市内で、大山地区はターンムの産地として知られ、「沖縄、ふるさと百選」に選ばれるなど、豊かな自然を残しています。そこで今回は、ウナピーの出身地である大山のターンム畑の自然や生き物を紹介します！



メンダカリヒーガー（ヒージャーガー）



メンダカリヒーガーは、かつては農作業後の水浴びにも使われていました。水量豊富で、今でもターンムを洗うなど、人々の大切な場所です。ウナピーが発見されたのはこの近くです。ターンム畑の周辺にはこのような場所が数カ所あります。湧き水は水田を潤すだけでなく、様々な生き物にとっての生息地や休憩地にもなっています。



セッカ (地図の②で発見！)



スズメよりもやや小さい鳥です。「ヒッヒッヒッ」、「チン、チン」と鳴き、その鳴き声から方言では「チンチナー」と呼ばれています。下降するときは上下に波打つように飛び、大山のターンム畑でもよくその姿が見られます。

ターンム畑には鳥のエサとなる昆虫や植物が多く、留鳥であるセッカやスズメをはじめ、季節の渡り鳥なども集まります。



10月頃になると、体が白くのっぴきな姿のサギの仲間が10羽ほどの群れでやって来ます。彼らはしばらくこの地で羽を休め、4月頃にまた飛び立って行きます。

コンジテンナガエビ

(地図の④で発見！)

クロベンケイガニ (地図の③で発見！)



ターンム畑では、水田の周りを歩くカニの姿をよく目にします。このカニはその中でも淡水と海水が混じる汽水域の周辺（宜野湾バイパス側の水路辺り）に生息する一種です。ゴツゴツとした強そうな見た目の甲羅が特徴です。

この他には、モクスガニ・フタバカクガニなどがおり、水田の側を通るとサーッとカニが一斉に移動していく音が聞こえます。

博物館の水槽でも飼育しているエビです。オスが持つ長いハサミ脚が特徴です。脱皮を繰り返して少しずつ成長し、沖縄に生息するテナガエビの中で最も大きくなる種類です。

大山では方言で「タナゲー」と呼ばれています。流れの緩やかなターンム畑の水路や湧き水に生息し、岩陰から顔を出しています。人の気配を感じると素早く逃げてしまうので、そーっと静かに観察しましょう。

うまかった〜！
脱皮した皮は食べちゃったぜ。



※博物館で4月・6月に脱皮しました！

ターンムのお仕事をされている方々もいらっしゃるのので、観察する時は柵を越えたり畑の中に入ったりにしないように気をつけましょう。

豊かで新鮮な水資源により広がるターンム畑では、様々な生き物もその恩恵に癒されています。本土の様に大きな川が少ない沖縄で貴重な場所といえるでしょう。海とは違う素晴らしい自然を感じてみるのも楽しそうですね♪
(大山の自然については『宜野湾市史』第9巻自然編・『ぎのわん自然ガイド』・『自然とヒト』に紹介されています。)





平成28年度 市史編集事業案内



ぎのわんのサングッチャー調査

サングッチャー調査では、今年度3月の報告書発刊に向けて執筆・編集を進めながら、夏までは補足調査を行なっております。4～5月には字宜野湾・我如古のサングッチャー、大山の総合行事を取材しました。宇地泊でも楽しいお話を聞かせていただいております。

他、これから皆さんの地域へ伺うかもしれませんので、その際はご協力をよろしくお願いいたします。



▲字宜野湾サングッチャーにて

伊佐浜土地闘争編

お待ちしております。『宜野湾市史』第8巻戦後資料編Ⅱ伊佐浜の土地闘争は、現在、編集作業を進めております。

伊佐浜の土地闘争は1955(昭和30)年に米軍によって強制的に行なわれた土地接收です。この時期、米軍による土地接收は県内各地で起こり、土地を奪

われた住民は抵抗し、のちの“島ぐるみ土地闘争”へと発展しました。本編では、伊佐浜の土地闘争に関する資料や証言を収録します。



▲専門委員会の様子(5月)



▲公文書整理の作業中

歴史公文書等整理・活用事業

歴史公文書整理・活用事業では、主に公文書のデータベース化(目録化)・CD化・マイクロフィルム化を中心に進めてきました。今後はさらに、公文書の活用に向けて作業が加速いたします。公開の基準案作りなどなど…。市民の皆様へ、貴重な歴史資料を円滑に活用していただけるよう準備を進めていきます。

沖縄県地域史協議会に参加してきました!

5月20日(金)、浦添市で地域史協議会の第1回研修会が行なわれ、市史編集の職員が参加してきました。

午前には浦添グスク・ようどれ・仲間集落などを見てまわりました。現地ガイドの情熱のこもった詳しいお話を聞く事が出来て改めて、私たちのふるさとの歴史をもっと大事にしたい、子や孫の世代へ継承していかなければいけない…と痛切に感じました。



午後は地域史作りの今後についての講演会でした。質問も飛び交い、課題解決に向けて議論が行なわれました。私達の住む地域の歴史をしっかり守っていききたいですね(^o^)



新職員の紹介



館長挨拶



平成 11 年6月1日、宜野湾の自然、歴史、文化について再発見し、新たな学びの拠点として市立博物館はスタートしました。その中心となってきたのは博物館の常設展示です。しかし開館から 17 年が経過する中で、展示設備の老朽化や学問の進歩は、常設展示を魅力の薄いものにしてしまいました。

こうした常設展示を生まれ変わらせるべく、博物館では常設展示をリニューアルいたします。

新たな展示の工事は、今年 12 月から来年3月までの予定です。順調に行けば、来年4月から5月には、新たな常設展示が皆さまの前に登場致します。生まれかわった常設展示は、一層市民に親しまれ、好奇心をかき立てる場となるものと確信しています。

また博物館では、常設展示だけでなく、企画展や、わらばー体験じゅく、市民講座等、これまでの諸事業についても更なる充実を図り、市民のご要望に応えるべく頑張っています。皆さまのご来館をこころよりお待ちしております。

宜野湾市立博物館 館長 千木良 芳範



仲村 健 (学芸担当主査)

文化課から異動してきました仲村健です。博物館では、管理と市民講座・文化財図画作品展などを担当します。前の部署では文化財整備や講座を担当していたので、文化財関係でわからない事がありましたら、お声かけ下さい。他の博物館スタッフと共にご協力させていただきますので、よろしくお願いいたします。

中村 圭吾 (学芸担当嘱託職員)

こんにちは。今年の4月から学芸担当嘱託員になりました中村圭吾です。専門は考古学です。宜野湾市の自然や文化など他分野の理解も深めながら仕事に活かせるよう頑張ります。よろしくお願いいたします。

平田 涼子 (市史編集担当嘱託職員)

4月から博物館の市史編集担当嘱託職員として働く事になりました、平田涼子です。まだまだ不慣れではありますが、頑張りたいと思います。宜しくお願いします。

比嘉 三紀子 (市史編集担当嘱託職員)

4月から市史編集を担当することになりました、比嘉三紀子です。公文書の目録化及び整理作業を行っていきます。宜野湾市の歴史・文化に携われる事を大変うれしく思っています。チャレンジ精神で頑張ります、どうぞよろしくお願いいたします。

久貝 祐子 (市史資料整理担当臨時職員)

4月から資料整理を担当することになりました久貝祐子です。博物館で働くことに憧れていたのが嬉しく思っています。博物館勤務は初めてでわからない事ばかりですが、博物館ならではの仕事を楽みつつ頑張ろうと思います。よろしくお願いいたします。

吉元 可奈恵 (住民票等交付担当臨時職員)

6月から証明書等担当として働くことになりました吉元可奈恵と申します。まだ分からない部分も多いですが、早く仕事を覚えられるように精一杯頑張りますのでよろしくお願い致します。

今年は全職員の半分以上が新メンバーとなりました。
新職員含め、今年も博物館をよろしくお願いいたします♪



千木良 芳範 (博物館館長)	平敷 兼哉 (学芸係長)
仲村 健 (学芸担当主査)	武智 方寛 (学芸担当嘱託)
中村 圭吾 (学芸担当嘱託)	我如古 香 (市史編集嘱託)
平田 涼子 (市史編集嘱託)	比嘉 三紀子 (市史編集嘱託)
久貝 祐子 (資料整理臨時)	吉元 可奈恵 (住民票等交付担当臨時)
比嘉 和純 (庶務・住民票等交付担当臨時)	





宜野湾市立博物館 H28年度・年間行事揭示板

企画展

【慰霊の日写真パネル展】6月15日(水)～7月3日(日)
沖縄戦の中の宜野湾～戦争で失われたムラ・命～
 本企画展では、写真パネルを中心に戦前の宜野湾の風景や沖縄戦の概要をふまえ、戦中の宜野湾や住民の様子、沖縄戦により変貌した宜野湾を紹介しました。

【夏の企画展】7月27日(水)～9月4日(日)
ムラを守る神々
 沖縄には古くからムラ(集落)と、そこに住む人々を守る御嶽(ウタキ)があり今もなお、年中祭祀の中で人々の健康祈願などが行われています。本企画展では、琉球王国時代から引き継がれる宜野湾のムラの聖地や由来などを紹介します。

【小・中学校連携展】9月28日(水)～10月23日(日)
第25回 ぎのわんの文化財図画作品展
 今年で25回目を迎える図画作品展。今年度も市内在住の小学生(3～6年生)、中学生が描いた宜野湾市内の文化財を紹介します。

*企画展は無料でご覧いただけます。
 *行事の予定は変更することがありますので、開催前に市報や博物館のホームページなどをご覧ください。

市民講座

- ①野嵩収容所をめぐる(野外)
 日時:6月19日(日)9:00～12:00
 講師:平敷 兼哉(宜野湾市立博物館 学芸係長)
- ②自然観察(野外)
 日時:7月24日(日)9:00～12:00
 講師:千木良 芳範(宜野湾市立博物館 館長)
- ③歳時記のはなし(室内)
 日時:8月28日(日)14:00～16:00
 講師:稲福 政斉(沖縄国際大学 非常勤講師)
- ④闘牛観戦ツアー(野外)
 日時:9月11日(日)12:00～17:00
 講師:宮城 邦治(元宜野湾市立博物館 館長)
- ⑤焼物探訪(野外)
 日時:10月23日(日)12:00～16:00
 講師:比嘉 立広(壺屋焼物博物館 学芸員)
- ⑥ムラの神々をめぐる(野外)
 日時:11月27日(日)13:00～16:00
 講師:新垣 義夫(普天満宮 宮司)

*室内講座:定員50名、受講無料

*野外講座:定員25名、保険料として100円

(④⑤の講座は別途参加費、入場料がかかります)

【社会科見学・出前講座】

当館では、見学だけでなく学校の授業に合わせた体験学習や、博物館職員が学校に出向いての出前講座(宜野湾市内の学校限定)も行っています。どちらも事前の打ち合わせが必要になりますので、お早めにご連絡ください。



見学の様子♪



GO LOOK!!

【常設展示室整備に伴う臨時休館のお知らせ】

当館は、常設展示室のリニューアル整備のため、平成28年12月から平成29年3月(予定)まで臨時休館をいたします。見学を計画される方は、お早めにお申し込みをお願いいたします。休館中は、ご不便をおかけしますが、ご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

・休館期間:平成28年12月～平成29年3月(予定)

宜野湾市立博物館

■入館料:無料 ■開館時間:9～17時(入館は16時30分まで)

■休館日:毎週火曜日、年末年始(12月29日～1月3日)
 祝日(慰霊の日、文化の日は除く)

※火曜日と祝日が重なったときは、翌日の水曜日にも休館です。

その他、臨時休館になる場合もございます。

〒901-2224 宜野湾市真志喜1-25-1

TEL:(098)870-9317 FAX:(098)870-9316
 ホームページ <http://www.city.ginowan.okinawa.jp>



ホームページも check して

宜野湾市立博物

検索

